キミに続く

深山　奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
キミに続く

【Ｎコード】
Ｎ９３８５Ｘ

【作者名】
深山　奏

【あらすじ】
現代／幼馴染／高校生／切ない／全年齢ＯＫ／ほのぼの／ＢＬぎみ／
ある日、幼馴染から「自分は養子」だと打ち明けられ、二人で生みの親の家を訪ねる話です。
ＨＰにてＵＰしています。

キミに続く　#01（前書き）

文字数は１５００以内で区切っています。次ページに飛ぶのが面倒臭かったらすいません。

キミに続く　#01

車窓の外を流れていく、夕暮れに染まる田園風景。
鈍行列車に僕たち意外の人はいない。
来るときも同じだった。僕は緊張している雪博を和ませようと思って、でも結局言葉が見つからなくて、
「こんなんで、会社、大丈夫か？」
なんて、どうでもいいことを口にした。鉄道会社が潰れようが、列車が廃線になろうが、僕にはぜんぜん関係ないし、興味もないのに。
今日、僕たちは学校をサボって、いつもとは逆方向の電車に乗った。
「ついてきてくれ！」
朝、駅で顔を合わせるなり、雪博が僕の腕を掴んだ。その切羽詰まった顔に、僕は思わず頷いていた。なんで、とか、どこに、とか聞く余裕はなかった。
何度か電車を乗り換えて、そのたびに、景色からビルが減って田んぼが増えていく。
一時間に一本しか電車が来ない、なんてありえない駅のベンチで並んで座って電車を待っている時、雪博がぽつんと言った。
「俺、養子なんだってさ」
「ヨウシ？」
僕は頭の中で上手く漢字変換ができず、聞き返す。
「実の子供じゃないってこと。俺だけ血が繋がってないんだって」
雪博の家には雪博の弟と妹がいる。ってことは、下の二人は親と血が繋がってるってことか。
そんなの今時珍しくもないし、気にすることないじゃん。って、他のヤツになら笑って言えたかもしれないけど、雪博には言えなかった。

「……」
「ウチ、この間オヤジがリストラになったじゃん？　それで生活苦しくて……俺、もしかしたら元の家に帰されるかも。っても、元の家なんて……」
雪博は力なく笑って、
「知らねぇっての」
小さな声で吐き捨てた。
「……」
ウチに来いよ。
僕が大人だったら、絶対そう言ってた。でも僕はバイトもしてないし、部屋だって兄貴と二人で使ってるし、家だって裕福ってわけじゃない。
「だからさ、なんていうか下見？」
雪博がおどけてみせる。
笑顔、引きつってるっての。
「……腹、減らない？」
「お前……人が真剣に話してる時にそれかよ……」
「だって朝食べてないし」
「俺だって食ってねぇよ。つぅか、お前いつも食ってねぇじゃん。今日だけそんな話すんなって……チッ」
雪博は舌打ちすると、何かを思い出したように鞄を引き寄せ、中を漁った。教科書とノートを出して僕の膝に乗せていく。持ってろ、ということらしい。
「なに？」
「ちょっと待てって。……あ、あった、あった」
雪博は鞄の奥底から一人分に小分けされたクッキーの袋を取り出し、僕に差しだす。
「ん」
くしゃくしゃに皺の入った袋は開けなくても中のクッキーがボロボロなのが分かる。

雪博は僕の膝に置いた教科書とノートを鞄の中に戻しながら言う。
「食えば？　一昨日もらったやつだから大丈夫だぜ、たぶん」
「たぶんって……。そもそもそういう問題じゃないんだけど……」
ホントはお腹もすいていなかったし、「バニラ味」なんて書いてある、いかにも甘ったるそうなクッキーを食べる気分でもなかったけど、僕はクッキーの袋を開けた。
開けた瞬間、強烈なバニラの甘い匂いがした。僕はわずかに顔を顰めて、まだ粉になっていないクッキーのかけらを口に運んだ。
「甘……。雪博は？　食べる？」
クッキーの袋を差しだすと、雪博は首を振った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9385x/

キミに続く

2011年10月26日05時13分発行